

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖西中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標「西中一心一夢の根っこを育てる」のもと、①「生徒の心を耕す生徒指導体制の充実」と②「自ら学ぶ力の育成」を重点目標として全職員で取り組み、概ね達成できた。コロナ禍であっても、皆で知恵を出し合い、新しい形の体験活動を模索したり、一つ一つの行事や取組にしっかりとした目標をもち、活動を充実させることができた。</li> <li>①については、生徒指導、教育相談、特別支援教育にかかる委員会を毎週開催し、連絡会で全職員が共通理解を図る体制が確立できた。来年度も教職員一丸となって生徒指導体制を充実させていきたい。また、不登校・不登校傾向の生徒の対応についても関係機関と連携を取りながら、生徒や家庭に寄り添いながら支援を充実させていきたい。</li> <li>②については、今年度委嘱された学力向上推進事業をよい機会と捉え、全職員で研究に取り組み、主体的に学び続ける生徒の育成を目指すことができた。来年度は「学びに向かう力」を生み出す授業づくりについてさらに研究を進め、全職員の指導力を向上できるような取組を推進していきたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	西中一心一夢の根っこを育てる～ ・それぞれの生徒の「夢」を実現させるための「根っこ」を育てる教育を、全校一丸となって推進する。 ・それぞれの生徒が、自分と他人を大切にし、お互いに認め合い・高め合って、共に成長できる学校をつくる。

3 本年度の重点目標	① 志を高める教育の推進 ② 確かな学力を育む教育の推進 ③ 豊かな心・健やかな体を育む教育の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目		重点取組		具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師の割合を80%以上にする。	A	・主体的な学習態度の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導法改善に取り組む。	A	・学力向上推進地域指定事業を活用しながら公開授業を複数回実施した。そのことを通じて教職員における主体的な学習態度の育成と、指導力向上の意識が高まった。	A	概ね妥当である。			
	○生徒の基礎学力の向上	○「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う」に肯定的な回答をする生徒の割合80%以上とする。 ○授業において「自ら選択して取り組む学習の実践や「授業の最後に、『ふりかえり』の活動を行っていると思う」に肯定的な回答をする生徒の割合80%以上とする。 ○調べ学習において、課題や目的に応じ、タブレット端末を用いて、情報を主体的に収集・整理・分析する場面を設定した授業実践に取り組む割合を80%以上とする。	A	・「めあて」や「ながれ」の提示とともに効果的な「ふりかえり」場面の設定がなされた授業実践に取り組む。また、生徒が主体的に選択させる場面を設定した授業実践に取り組む。 ・GIGAスクール構想実現によるタブレット端末の活用を通して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた授業実践に取り組む。	A	・校内研究の取組として、全職員が共通認識をもって授業実践を行っている。 ・全教科でタブレット端末を利活用した提案授業を行い、職員のスキルアップにつながった。生徒もタブレット端末を用いて情報を収集・整理・分析する授業に意欲的に取り組む場面が増えていく。	A	・学力向上において、成果が表れていることは評価に値する。今後もさらに授業実践と研究を推進してほしい。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業実践について研究を進めることができた。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校行事や体験活動、奉仕活動を通して、自分が成長している」と回答する生徒を90%以上にする。 ○「差別やいじめは許さない」という意識を持ち、お互いのよさを認め合い、思いやりの心をもって行動している」と答える生徒を95%以上にする。	B	・道徳教育や体験活動、人権・同和教育を核とした学校教育全体での心の教育の充実に取り組む。 ・「いじめ・いのちを考える日」の取組を通して、命と人権を守ることの大切さを考えさせる。	A	・成果指標については、おおむね達成することができた。 ・「いじめ・いのちを考える日」の取組を充実させ、生徒に様々な視点で互いの良さを認める取組が推進できた。	A	・概ね妥当である。今後もあらゆる機会を通して、生徒の心の成長につながる取組を継続してほしい。			
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止等(いじめの防止等のための取組、事案対応等)」について、関係職員や担任・保護者と連携した組織的対応ができている」と回答した教員を100%にする。	A	・いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止を柱として、組織的に対応できるよう生徒指導体制や教育相談体制の整備及び家庭や関係機関との連携など生徒一人一人に寄り添った支援の充実に取り組む。	A	・生徒指導委員会や職員連絡会を通して、学校全体で諸問題を共有し、生徒が安心して生活できる学校づくりに全教職員で取り組むことができた。	A	・概ね妥当である。今後も生徒一人一人に寄り添った支援を行ってほしい。			
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○「自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがある」と回答する生徒を85%以上にする。	A	・教科の学習、学校行事等を通して、自らの夢や目標について考えさせる場面や時間を設定する。 ・キャリア・パスポートを通して自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。	A	・コロナ対応をしながら学校行事や体験学習を実施することができ、自らの夢や目標について考えさせられている。	A	・地域でも鳥栖西中学校の生徒の活躍が認知され、評価されている。今後も応援していきたい。			
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を95%以上にする。	B	・安全・安心な学校給食の実施や学校の教育活動全体を通じた食育に取り組む。 ・「日刊給食たより」を用い、昼食時に食に関する放送を行い、健康と食事について考えさせる。	B	・関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置づけた指導に努めている。 ・今後、給食委員の活動を通して残菜を減らす取組を進めていきたい。	B	・生徒には具体的かつ科学的な根拠などを提示しながら、食の大切さを伝える取組を行ってほしい。			
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・校務分掌の確実な遂行に取り組み、「チーム西中」の意識のもと、計画的・組織的な業務遂行に努めるようとする教職員の意識向上を図る。 ・定時退勤日の確実な実施に取り組む。また、平日でも目標とする退勤時間を設定し、教職員へ周知することで、退勤時間遵守に向けた意識化を図る。	B	・校務の分担、省力化、効率化をすすめている。 ・退勤時間の設定と時間を守る取り組みは進んでいるが、仕事量が多く完全にはできていない。	B	・職員意識改革も進み、退勤時刻が極端に遅い日はなくなっている。 ・校内で取り組むべき業務改善については、ほぼ実施できている。			

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		重点取組		具体的取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言			
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級を80%以上にする。 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級を80%以上にする。	A	・教科「日本語」の取組について、学期に1回程度、学校・学年たより等で保護者や地域に知らせる。 ・保護者・地域に対して教科「日本語」の授業を公開する。 ・学年全体で授業に関わる体制を構築し、魅力的な授業づくりを行う。	A	・学年全体で教科「日本語」に取り組み、GT等も活用しながら魅力的な授業づくりに努めている。 ・学校・学年たより等で、活動の様子を保護者や地域に知らせている。	A	・保護者や地域に対する授業公開の機会は設定できなかったが、学校・学年たより、小中一貫教育たより等を通して、多くの取組を保護者や地域に知らせることができた。 ・学年全体で授業にかかわり、魅力的な授業づくりを行うことができた。	A	・概ね妥当である。	
○開かれた学校作り	○地域とともにある学校づくりの推進	○地域の人的・物的資源を生かした授業や講演会を1回以上設定する。	A	・コミュニティ・スクールの運営を通し、各種団体、地域等の協力を測り、教育活動の活性化を図る。 ・様々な機会を通して、学校の様子や行事等の情報の発信を行う。	A	・学校運営協議会を定期的に開き、職業人に学ぶ講座では、多くの地域の方々で交流することができた。 ・学校だよりは定期的にHPIにアップし、民生委員会や区長会、交際協などでは学校の様子を知ら	A	・学校運営協議会を定期的に開催することができ、講座や地域ボランティア、中庭の整備などで地域との交流ができた。 ・学校だより、HP更新などは定期的に実施した。	A	・概ね妥当である。来年度も地域や保護者と連携しながら、様々な行事や取組を行ってほしい。今後も応援していきたい。	
○多様なニーズに対応した教育の推進	○特別支援教育に関する理解の啓発と教師の専門性と意識の向上	○特別支援教育コーディネーターと、関係職員を中心として特別支援委員会を週1回開催する。 ○特別支援学級の生徒や保護者、担任に対して、希望する進路を実現できるような研修を行う。	A	・委員会を週1回定期的に開催し、生徒の情報交換、支援計画や指導計画の作成や、具体的な対応に関する協議を行う。 ・特別支援学級の担任を中心に、支援を必要とする生徒が社会的・自立的・職業的な自立に向け、自らの生き方に付いて考え、希望する進路を実現できるような進路指導及びキャリア教育の充実に取り組む。	A	・委員会と全職員参加の連絡会で情報交換した上で支援を行うことができた。 ・全職員で特別支援教育にかかわる研修を行い、特別支援教育に関する理解の啓発と教師の専門性と意識の向上につなげている。	A	・各委員会を定期的に開催し、全教職員に情報交換を行うことで特別支援教育への理解やスキルを上げることができた。 ・小中連携や情報交換を密に行い、自立に向けた支援の在り方を模索し、キャリア教育の充実に取り組むことができた。	A	・概ね妥当である。	

5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標「西中一心一夢の根っこを育てる」のもと、①志を高める教育の推進 ②確かな学力を育む教育の推進 ③豊かな心・健やかな体を育む教育の推進 を重点目標として全職員で取り組み、重点取組内容に対しては概ね達成できた。 ・①については、学校行事や様々な取組を通して、自らの夢や目標の実現に向け努力する気持ちを育てる教育活動を推進することができた。来年度は更に生徒主体の学校行事等の実施を通して、魅力ある学校づくりと生徒の居場所・絆づくりに向けた取組を行っていく。 ・②については、学力向上推進地域指定事業を活用しながら、テーマやめあてをもって公開授業や授業研究会を行うことができた。そのことで、教職員のスキルが向上し、佐賀県学力・学習状況調査では2年生において向上が見られた。このことを来年度の校内研究へつなげ、深い学びの実現に向けた取組を推進していく。 ・③については、いじめ防止等について、常に全教職員と情報共有を図り、管理職を含めた生徒指導体制の充実を図った。特に、今年度から不登校やいじめの未然防止に向けた取組として、全校で構成的グループエンカウンターに組み込み、生徒同士の人間関係づくりやコミュニケーション能力の向上を図った。来年度も継続し、生徒が夢や志をもち、自らの可能性に挑戦する為に必要な自己肯定感と自己有用感の育成を目指した取組の推進を図っていく。
----------------	---